

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 25 年 2 月 20 日

審査機関名 株式会社 J A C O C D M

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	ホテルにおける重油ボイラーからガスボイラーへの更新
排出削減事業者名	株式会社茶玻璃
排出削減共同実施事業者名	道後温泉旅館協同組合
事業実施場所	道後温泉旅館茶玻璃（愛媛県松山市道後湯月町 4-4）
事業の概要	本事業は、既設の重油ボイラーを廃止し、高効率ガスボイラーに取り替えることにより、A 重油の使用量および二酸化炭素排出量を削減する。
排出削減量の計画	2011 年度： 12 tCO ₂ /年 2012 年度： 72 tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 84 tCO ₂)
国内クレジット 認証期間	開始日 2012 年 2 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認している。 排出削減事業実施場所： 道後温泉旅館茶玻璃 (愛媛県松山市道後湯月町 4-4) 事業実施サイトの視察日付：2013年2月15日
追加性を有すること	1) 法的義務がないこと 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、関係者への質問等により確認している。 2) 設備が継続利用可能であること。 排出削減事業を実施せず、設備更新を行わない場合、既存設備を継続して利用できることを、現地視察及び事業者への質問等により確認している。 3) 投資回収年数 排出削減事業の投資回収年数は、算定不能である。投資回収年数計算の根拠データについて、事業者及び関係者への質問及び検算、関連証憑との突合により正確性を確認している。尚、補助金を除く、純投資金額に基づいて算定されていることを確認している。 4) 追加性判断における定性要因 既存の A 重油ボイラーはまだ利用可能であるが、空調設備の分散制御、LED 照明の採用等の二酸化炭素排出量削減活動を推進しており、その一環として国内クレジット制度による当事業に至ったことを質問によって確認している。 又、作業環境並びに作業者の安全性の向上が実現されることから、投資採算性を問わず、設備の更新を決定した事を質問により確認している。
自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者への質問、その他関係者への質問、排出削減事業者の提出した誓約書の確認等により、自主行動計画に参加していない事業者であることを確認している。

<p>排出削減方法論に基づいて実施されること</p>	<p>1) 本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001 に基づき排出削減量を計算しており、また、その方法論の適用条件を満たしていることを確認している。</p> <p>適用条件 1：事業実施前のボイラーよりも高効率のボイラーに更新されていることを設備仕様及び関係者への質問により確認している。</p> <p>適用条件 2：ボイラーの更新を行わなかった場合、事業実施前のボイラーを継続して利用することを現地視察及びヒヤリングにより確認している。</p> <p>適用条件 3：事業実施後のボイラーで生産した蒸気を自家消費していることを現地視察及びヒヤリングにより確認している。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p> <p>3) ベースライン排出量の算定に係る既存設備の最大利用期間について、当該設備が法定耐用年数の 2 倍を超えていないことを確認している。</p>
-----------------------------------	--

4. 特記事項

特になし。

以上